

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1592300030		
法人名	有限会社ソワン		
事業所名	グループホームそわん		
所在地	新潟県魚沼市井口新田950-2 (電話) 025-792-6912		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	19年	11月22日

【情報提供票より】(19年9月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 11月 22日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤 5人、非常勤 6人、常勤換算 7.7人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階	建ての	2階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 ~ 39,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日あたり		円	

### (4) 利用者の概要 (19年9月現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2		4名	
要介護3	3名	要介護4		1名	
要介護5	0名	要支援2		0名	
年齢	平均 85.7 歳	最低	78 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	上村医院・かねもと医院・佐藤歯科医院
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高速道路のインターチェンジに近くアクセスも良く、スーパーやレストランなどもすぐ側にありながら、ホームの周辺には畑や田んぼが広がり、とても静かな環境にある。  
近隣にグループホームが少なかったことと代表者の介護や高齢者に対する熱い思いから、このホームが開設された。代表者の熱意に賛同して集まってきた職員のほとんどが介護職経験者である。開設1年不足であるが、利用者の生活はとても安定しており、利用者一人ひとりの表情は生き生きしている。ホーム全体が明るい雰囲気、手すりやトイレの高さ、浴槽なども、高齢者の心身状況を良く考慮した設備である。今後、地域との連携を強化することで、認知症介護における地域の拠点となることが期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初回のサービス評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めてのサービス評価であり、職員全員で自己評価票を記入した。その中で取り組むべき視点や自分たちに不足の部分が見えたという感想を持っており、積極的に評価の結果をケアに活かそうという姿勢がある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催しており、民生委員や近隣の住民、市担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっている。特に民生委員や住民代表者に、グループホームのケアや内容について、理解が深まっている。 市町村との関わりについては、市の担当者や管理者とがいつでも気軽に相談しあえる関係にある。今後は防災や災害時の協力体制について関係性を構築していこうと考えている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>開設時に家族会を立ち上げ、意見をいただけるよう努力している。苦情などは寄せられていないが、家族の要望により3階に冷蔵庫を設置するなど、実際に活かしている。またあまり活用はされていないが、玄関にご意見箱も設置している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>代表者の自宅があった場所のため、代表者が培ってきた地域との関わりを引き継いでおり、町内会にも加入し、近所との交流はスムーズに行われている。開設時には代表者が近所を回って説明した。地域の行事に参加したりボランティアの受け入れなども検討しているとのことなので、今後さらに交流の範囲を広げていく取り組みに期待したい。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	代表者の体験と職員の意見を取り入れて、平易で判りやすい理念を掲げている。入居者の笑顔を引き出すことを第一の理念としている。		地域密着型サービスの役割を再確認し、地域の一人としての利用者の生活を支えるという面も理念に盛り込むことを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を理解しており、常に意識しながら業務にあたっている。代表者は日常的にホームへ出向き、家族の立場で職員にケアのあり方や理念の実現に向けて話をしており、職員が理念に立ち返る機会となっている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	わかり易い言葉で玄関や各フロアに掲示しており、利用者・家族にも自然と理解されている。特に入居者の理解が進んでおり、職員も日々の会話に盛り込むなど、理念の浸透に努めている		地域への理念の浸透はこれからの段階であり、今後の取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	代表者の自宅があった場所のため、代表者が培ってきた地域との関わりを引き継いで、町内会にも加入し、近所との交流はスムーズに行われている。開設時には代表者が近所を回って説明した。隣の方とは畑を通じて交流が始まっている。		地域の行事に参加したりボランティアの受け入れなども検討しているとのことなので、今後さらに交流の範囲を広げていく取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めてのサービス評価であり、職員全員で自己評価票を記入した。その中で取り組むべき視点や自分たちに不足の部分が見えたという感想を持っており、積極的に評価の結果をケアに活かそうという姿勢がある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催しており、民生委員や近隣の住民、市担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっている。特に民生委員や住民代表者に、グループホームのケアや内容について理解が深まっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と管理者とは、開設前からいつでも相談できる関係にある。今後は防災や災害時の協力体制について、関係性を構築していると考えている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は、グループホームの密室性が虐待につながる可能性をよく理解しており、マニュアルを整備し、虐待防止に関する内部研修を行なって、防止に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真入りの便りと金銭出納帳の写し、及びその月の個々の様子をお知らせする職員手書きの手紙を、請求書を送付する際に同封して、きめ細かく報告がなされている。また入居者に変化があった時や相談のあるときは電話や来訪を促すなどして、様子をお知らせしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	開設時に家族会を立ち上げ、意見をいただけるよう努力している。家族の要望により3階に冷蔵庫を設置するなど、実際に活用している。また、玄関にご意見箱を設置している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全職員参加で行うケア会議に、代表者・管理者も参加し、職員の意見を聞いている。また、業務改善提案書の提出を職員に呼びかけたり、改善を提案する職員を中心に職員間で話し合い管理者に意向や希望を伝えるなど、様々な意見提言のシステムがある。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設1年になるうとしているが退職者がなく、馴染みの関係も出来上がっており、入居者の生活の安定が図られている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	業務マニュアル、事故防止マニュアル、見取りに関するマニュアルなどが整備され、各フロアに置かれている。しかし、感染症対応マニュアルは予防と対応が整理されてないためにわかりづらく、インフルエンザやノロウイルスといった感染症に関するものが不足している。		感染症のマニュアルは予防と対応がそれぞれわかりやすいように整備し、それ以外のマニュアルについても見直しの機会を定期的に持ち、より現状に即したマニュアルの整備・活用を期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には必要時、適切な職員が参加できるようにしている。また研修会、講習会、関係資格などの情報を職員に提供し、参加希望のあるときは勤務変更等を行なって最大限配慮している。ホームの実態に合わせた内部研修はほとんど行われていない。		外部研修への参加は時間的にも人数的にも制限があり、また、業務に直結しないものもある。職員の資質向上、利用者の生活の質の向上のために、ホームの実情や必要性に応じた内部研修を充実させ、計画的に実施することが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	魚沼地区全体のグループホーム協議会に参加しており、不定期ではあるが研修会等で交流、情報交換を行っている。全国グループホーム協会にも加入している。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	業務改善提案書により、職員の意見の吸い上げを行っている。また、管理者は日頃から職員の話や提案をよく聴くように努めている。		職員がやりがいや達成感を持てるようさらに職員の声を聞いたり、ストレスの大きさを意識した今後の取り組みを期待する。また、何度も転記するような記録様式についても、簡素化・効率化を図り、職員の負担軽減に向けて検討してほしい。
<b>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する本人や家族の見学を受け入れている。本人の自宅へ事前面接に伺って情報収集することもある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や掃除など、利用者個々の能力や得意なことを活かしてそれぞれに活躍できる場面がある。調理に困ったときに助けてもらったり、山菜採りや山菜の下ごしらえの方法を、利用者から教わっている。		
13 - 2	28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会は多く、情報交換は密に行われている。日頃からよく家族とコミュニケーションが取れており、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時間を、利用者とゆっくりコミュニケーションを取れる機会とし、その際に思いや意向の把握に努めている。外出などの意向はできるだけ叶えるよう努めている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接の際に生活歴などの情報収集を行っているが、情報量が少なく、ケアに活かさきれていない。		センター方式アセスメントの活用について検討を始めるところであり、今後の取り組みに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のケア会議の際にカンファレンスを行い、職員全員の気付きやアイデアを活かして介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリング、評価を行い、定期的に見直しを行っている。また、必要に応じて柔軟に見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	花見など旅行に行きたいというニーズに対して、代表者がマイクロバスを借りてきて小旅行を実現させた。また、主治医への受診は職員が付き添い、それ以外の受診についても本人・家族の状況に応じて職員が付き添っている。地域の認知症を抱える家族から相談を受けて、地域権利擁護事業や成年後見制度の情報提供も行なった。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への受診はホームが行い、それ以外の受診は基本にご家族が行う体制になっている。主治医以外への受診でもご家族に事情があって付き添えない場合はホームで対応している。受診の際はバイタルの記録や日ごころの様子を書面にして持って行き、医師に情報提供している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	代表者は、ターミナルまで支援することを前提としたホームであることを、利用者・家族・職員に伝え、看取りの指針やマニュアルを整備している。また、ホームでできること、できないことを明確に示し、利用者の状態に応じてその都度話し合いを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導や口元を拭う介助などはさり気なく行われており、利用者のプライバシーを守る姿勢がうかがえる。		同姓の方がいたことをきっかけに、入居者全員を下の名前で呼んでいる。呼び方について、職員との関係性に留意しながら、どういう風に呼ばれたいか、本人やご家族と話し合っている。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や入浴時間、作業など、利用者それぞれの希望を聞きながら、最大限実現できるように努力している。畑を生きがいにしている方、縫い物の得意な方など、それぞれの特技や好みを活かしてその人らしく生活できるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や家族が利用者と共に食事しており、とても暖かい雰囲気を感じた。調理や味付け、後片付けなどに利用者が参加する場面もある。また、畑担当の利用者の取ってきた野菜が食卓に並び、自然と会話が弾んでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしており、ホーム入居後尿意を取り戻し、おむつの外れた方もおられる。トイレの合図には呼び鈴や鈴を活用している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は一人ひとりの希望に合わせている。また二人で一緒に入りたいという希望にも合わせて実施している。夜間入浴については現在希望者がいないため実施していないが、希望者が現れたときはその希望を実現出来るよう検討していく用意がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個々の能力、したいことの把握に努め、畑や山菜採り、縫い物作業や調理など、多彩な役割、楽しみごとの場を提供している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1回程度、近くのスーパーに食材の買物に出かけている。また天気の良い日の散歩や行楽シーズンの小旅行も実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない、と職員全員で確認している。家族の中には、ベッドからの転落防止のため柵で囲うことを希望される方もいるが、その際にも充分説明して話し合い、布団で対応するなどの対策を講じている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーマットを敷き、外来者や利用者の外出を察知できるよう工夫しており、日中玄関の施錠は行っていない。またセンサーの音も小さく、外来者が頻繁に訪れてもうるさくならないよう配慮されている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルが整備されている。事故報告やヒヤリハット報告が作成され、対策も検討されている。その対策が定着したかどうか、有効に機能しているかどうかなど、一定期間後の振り返りや評価は行われていない。		特にヒヤリハット報告については同じ利用者の同じような場面の報告が多く、事例が活かきれていない。対応策について一定期間後の評価を行なって効果を確認するとともに、必要なときは介護計画に反映するなど、様式も含めて活用方法を検討してほしい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時すぐに駆けつけることのできる看護師を採用して備えている。職員は消防署の普通救急救命士の講習を受けてその資格を取得しているが、救急対応に関する内部研修を実施しておらず、定期的、継続的な研修を行う体制になっていない。		看護師を採用していることを最大限活かし、内部研修などで繰り返し訓練する体制を整えてほしい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	運営推進会議や町内会に働きかけていこうという段階である。本年7月の中越沖地震の際は、県や包括支援センターから安全確認があり、心強く思った。		今後、災害対策を行っていこうと検討している。災害時に利用者が安全に避難出来るよう訓練を重ねるとともに、地域から協力が得られるようさらなる働きかけを期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録して、把握している。実施した献立について市の栄養士から3～4ヶ月ごとにチェックを受けてアドバイスをもらい、職員で検討し栄養バランスの取れた献立となるよう工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に木材を取り入れた温かみのある内装になっており、飾られている写真や装飾品も家庭的である。食堂のテーブルも一般家庭と同様のものを使用しており、居心地のよいリビングになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっている。また、ホームでの写真や家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしている。		